



表紙 しらさぎ森林公園
花菖蒲まつり
(栄町公民館)

特集 第25回全国公民館研究集会発表要項から
第9分科会「ふるさと・地域づくり」

視 点 地域に学びを返す子どもの学びが地域づくりの種に

ひろば 週五日制の対応は家庭と地域が基本

実践記録シリーズ 子育てサロン事業

サークル交流 楽陶会 (五泉市公民館)

龍吟会 (小須戸町中央公民館)

素顔拝見 風岡ユノさん (新津市)

内山 篤さん (大潟町)

第43回関東甲信越静公民館研究大会

兼第53回新潟県公民館大会成功裡に終了

公民館の挑戦「学び」から「活動」

そして「創造」へをテーマに

豊浦町「ホテル泉慶・華鳳」で

第一日目オープニングは、新潟市「ひなげしコーラス」による「公民館の歌」、「花嫁人形」。そしていよいよ開会式、関プロ公連・本大会実行委員長の今井昭友会長の主催者あいさつ、

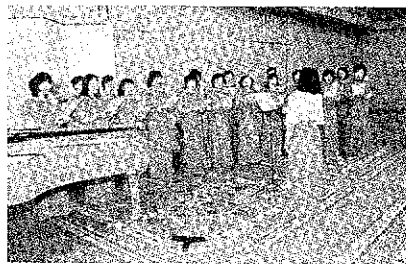
続いて全公連松下誠会長、新潟県教委南教育次長のあいさつがなされた。

来賓の祝辞は、新潟県高橋副知事、そして新潟県公振連関会長からなされ、地元歓迎のあいさつは、芹野豊浦町長からなされた。

基調提案は、新潟市中央公民館運営審議委員副議長から、時代背景を的確にとらえ、格調の高い内容の提案がなされた。



▲今井会長あいさつ



分科会協議は、主会場ホテル華鳳と副会場のホテル泉慶に分かれ、それぞれ15の分科会が設定され、事例発表に基づいて、内容の濃い運営がなされた。担当県の本県は、五つの分科会で事例発表を行っている。

翌日は、開会に先立ち、第53回県大会が行われたが、表彰式と大会旗の引継ぎのみであった。

アトラクションは、地元本田小学校児童による「栄米太鼓」が行われた後、縄文の権威小林達雄先生の記念講演「縄文人の意識改革」と題して行われたが、現代に通ずるお話で、好評だった。

最後は、全公連、関プロ公連の表彰式に移り、永年功労のあった方々が表彰された。千百余名の参加を得て、こうして盛会のうちに大会を終了することができた。次期開催は埼玉県で。



〔歓迎夕食会〕

越後の地酒と

佐渡おけきで盛会！

「遠くから参加の方々に、せめて越後の地酒を試飲してもらおう!!」という今井会長の意向を受け、県内各市町村公民館から約60本余の銘酒等が提供された。

宿泊、当日参加を含め約700余名の歓迎夕食会が開会され、大いに飲み、かつ歓談しながら、親交を深めた。

また、関プロ理事会での要望「佐渡おけき講習会」も、佐公連荒さんの正調佐渡おけき、新潟市北地区松浪会の踊り指導と相まって大きな盛り上がりを見せることとなった。荷物にならないお土産とは、このことかという声もきかれた。

『公民館運営審議会委員の手引—改訂版—』完成!!

A4判 500円 6.8ページ (送料実費)

『全公連50年史』(社)全国公民館連合会

B5判 3,000円 4.5ページ (送料実費)

新潟県公民館五十年誌

A4判 3,130円 (送料実費)

第1回 月刊公民館編集委員会開催

・平成14年8月23日(金)14時～
・全公連事務局会議室
月刊公民館編集委員 (平成14年度)

- ・安藤義隆 (千葉県船橋市高根台公民館館長)
- ・猪瀬清隆 (国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)
- ・岡 幸江 (埼玉大学助教授)
- ・鈴木友夫 (新潟県公民館連合会事務局長)
- ・立田慶裕 (国立教育政策研究所生涯学習政策研究部)
- ・中森美都子 (国分寺市本多公民館職員)
- ・廣瀬隆人 (宇都宮大学助教授)
- ・真先正人 (文部科学省社会教育課地域学習活動推進室長)
- ・三輪建二 (お茶の水女子大学教授)

9人の編集委員の内、2人のみ再任あと7人は新任。一新したメンバーでの編集委員会となった。新編集委員長には、廣瀬隆人(宇都宮大学助教授)が就任され、企画・内容面でも新鮮さが求められそうである。まず、今後の編集方針等についての意見交換がなされ、確認された。ついで、12月号以降の特集テーマ、執筆者の選定等について、各委員の活動する分野、領域からの積極的な意見交換がなされ、ユニークな内容面でのコンセンサスがなされた。そして、第2回編集委員会の日時を調整、決定して散会となった。今回参加して感じたことは、月刊公民館を現場サイドに密着すべく、通信員制度を再開させ、6ブロックから6人の方が選任されたことである。

視点

「地域で、地域ととも」に、地域を学ぶ学習の展開「これが当校の総合的な学習の目標の一つである。

五・六年生は当地区の縄文遺跡について調べ、自分たちの住んでいるこの郷土が古くか



ら続いていることを学んだ。また、村を救うため竜神に嫁いだ娘の物語である「おいよ伝説」についても調べた。

地域に学びを返す 子どもの学びが地域づくりの種に

この児童が調べたことを発表し、地域に返したことで新しい動きが生まれようとしている。児童の調べた遺跡のことはすでに本格的な

小林 民 弥

ある畑を掘らしてもらい土器を発見するなど、地域の方から様々な支援をいただいた。調べたことを文化祭で発表したり、地域の歴史探検家として地区

小千谷縮の相明石次郎寄宿の地、柏崎を抜け高田へ続く高田街道の要所でもあった当地区は歴史的にも大きな財産を持っている。

調査のなされたものもある。しかし児童が調べ発表したことにより、せっかくなの財産を生かすことができないかとの発案が出てきた。縄文遺跡だけでなく

(小千谷市立山谷小学校 校長)

週五日制の対応は家庭と地域が基本

中頸城郡中郷村公民館運営審議会委員 陸川 正雄



公民館との関係は、かれこれ四十年以上にな

けたりする中、グループで企画、演出を行い寸劇を演じたりした。上級生は、下級生の世話をし、下級生も一生懸命であった。活動が活発になるに従い、集落の人達にも変化が見えて来た。子ども達には気軽に声を掛けてくれたり、他の行事にも参加し盛りあげてくれるようになった。親もPTA行事に積極的に参加、リ

ひ る ば

た。当時の公民館行事(青少年を対象)は数行事だったと記憶している。昨今は、多くなり、特に本年度は学校週五日制対応のため数多く計画、実施されている。一年間の結果を期待している。

今、児童の素朴な学びが地域づくりの種となり時かれようとしている。地域づくりは、やはり子どもから大人までの合作である。これからも地域で、地域とともに、地域を学び、学びを地域に種蒔きできる児童の育成を目指す、進んでいきたい。

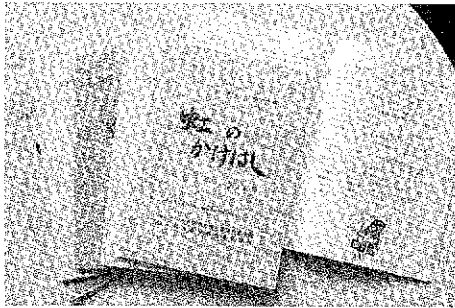
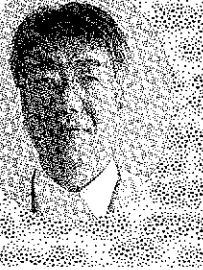
三十年前とは一変した環境ではあるが、当時のことを振り返ってみるに、やはり子ども(青少年)とのかかわりは、「家庭と地域」が基本であることに変わりはないと思ってい

発表要項から

「つくり」

人づくりの推進

館長補佐 高橋義孝



めのアーケード、屋根の融雪施設など雪を克服するための工夫について学習をし、博物館では歴史学習を行いました。

交流会終了後には、作文集「虹のかけはし」の発行をしています。

6. 交流を核とした地域おこし・地域づくりと人づくりの試み

(1) 交流の継続による多くの人との関わり

400人を超える人が山手村を訪問しています。

(2) 行政レベルの交流

市長、教育長をはじめ、市議会の視察も2回行われました。

(3) より多くの団体・機関との関わり

実行委員会のメンバーをはじめ、小学校、PTA、後援会、振興会、公民館、教育委員会、市議、虹の会などそれぞれの交流が生まれました。

(4) 文化・芸能の交流

小学校間での文化祭の作品交流、訪問時にお互いの芸能の鑑賞を行いました。また、山手村の国重要文化財「備中神楽」を十日町市に招待するという交流もありました。

(5) 物産の交流

両地域の催し物があるとき、お互いの地域の特産物を取り寄せ、販売をしています。

(6) 中条冬まつり

地区の青年部が中心となり、地域の人たちの協力を得ながら、「中条まつり」を計画しました。1,500人を超える人たちが賑わい、冬の祭りとして定着しています。

(7) 交流の継続を支援する「虹の会」の発足

平成11年12月に地域の支援組織として「虹の会」が発足しました。現在230人あまりの会員から加入していただき、年間65万円の会費を集めています。

7. 交流をとおしての成果

(1) 訪問後も電話や手紙により、家族ぐるみの交流が続いています。

(2) 成人を対象に、山手村への訪問ツアーの気運が高まっています。

(3) 不登校気味の児童や障害を持つ児童の参加などをとおして、いたわりの心や思いやりの心が芽生えてきています。

(4) ホームステイ体験をとおし、我慢すること、礼儀作法、きまりを守ること、ゆずりあいの心をもつことなどの児童の成長が見られました。

(5) 地区振興会をはじめとした、地域の組織の支援の体制が整い始めています。

(6) 地域の活性化を目指したイベントが行われるようになりました。

8. 今後の課題

物産交流を積極的に行いたいという要望や、財政基盤の確立、また交流の継続への意欲の維持などの課題がありますが、この交流が、ふるさとを愛し、ふるさとに住む喜びと誇りを持つよう、住民一人ひとりの意識を高めることの一助になればと期待をしています。

大会当日の10月3日(休)には、十日町公民館中条地区館星名武男館長と同地区館根津正善主任も、この分科会に参加を予定している。

なお、この分科会の運営責任者は当県公連今井昭友会長(全公連理事)が担当することとなった。



特集

第25回 全国公民館研究集会

第9分科会「ふるさと・地域

～心通うまちづくり、

十日町市公民館中条地区館

『岡山県山手村との交流をおしてのまちづくり』

1. 十日町市中条地区の紹介

十日町市は、新潟県の南部に位置する人口約4万4千人の小さな市です。有数の豪雪地帯として全国的に知られ、日本一の大河「信濃川」が流れ、「魚沼こしひかり」の産地でもあります。

十日町市中条地区は市の北部に位置し、世帯数1,122、人口3,923人、稲作を中心とした農村と住宅地からなっています。地域内には野球場、陸上競技場があり、スポーツが盛んな地域です。笹山遺跡から出土した火焔型土器群は、平成11年に国宝に指定されたことでも話題になりました。



2. 岡山県山手村の紹介

山手村は、岡山県の南部に位置し、岡山市、合敷市、総社市に隣接しています。世帯数1,115、人口4,180人です。古来より、吉備王国の一角として繁栄し、数多くの古墳や遺跡があり、昭和46年には村の半分が「吉備風土記の丘」県立自然公園に指定され、豊かな自然とこれらの遺跡が調和した田園風景が広がっています。

おだやかな気候を利用した、セロリ、メロン、桃、ぶどうなどの栽培農家が多く、岡山県でも有数の産地となっています。

3. 交流のきっかけ

十日町市中条に本拠地があった南北朝時代の武将・大井田氏経が、南朝方新田義貞軍として岡山県山手村にある備中福山城において、北朝方足利軍と三日三晩の死闘を繰り広げました。この「福山合戦」から660年を記念して、平成8年5月に岡山県山手村を中心に「第3回全国大井田氏サミット」が開催されました。

このサミットに参加した十日町市長と山手村長との間で、この歴史的背景を基に、少年のうちからお互いの地域の学習を深めようと交流を始めることが話し合われました。

4. 目的

“ふるさとを知ることが、ふるさとを愛する心を育てる”“広めよう交流の輪、深めよう交流の絆”をキャッチフレーズに、自然条件や文化の異なる人達との交流をおして、自分の住む郷土を見直し、誇りを持てる地域をつくることを目的としました。

5. 交流の実際

平成9年2月に山手村から十日町市中条に最初の訪問がありました。さらに平成9年度には文部省委嘱事業「青少年交流推進事業」の採択を受け、8月に山手村を訪問。以降、両地域の小学校6年生全員を対象にして、夏は十日町市中条から山手村へ、冬には山手村から十日町市中条を訪問をするという形で交流を続けてきました。

この間、児童はホームステイを体験することを最大の目的とし、その上でお互いの地域の特色を生かした交流を行って来ました。

山手村においては、白桃の収穫、箱詰め作業の体験。ハウスメロン栽培農家、郷土資料館、史跡の見学を行いました。十日町市では、スキーや雪像作り体験など雪と触れ合う体験。また、消雪パイプ、商店街の雪よけのた

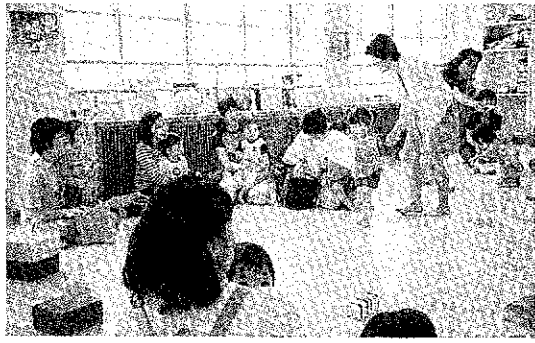
実践記録シリーズ(58)

子育てサロン事業

新潟市東地区公民館主幹 吉田 明美

◇子育てサロン開設までの経緯

東地区公民館は、新潟駅周辺から阿賀野川に至る広い地域を有する公民館である。新潟駅周辺には転勤者の住宅が多いが、大半は古くからの住民で、どの地区も高齢化の波が押し寄せている。従って、当公民館の利用者は五十代以上の女性が多し



めている。

今少子高齢化の中で、新潟市も子育て中の親、特に母親が家の中で孤独に子どもと向き合っている、思い通りにならない子育てに対して誰にも相談できず思い悩み、最悪の場合は子どもを虐待してしまう姿が問題視されている。友だち作りもできない難しい状況では、行き場のないそういう親のために、いつでも自由に出入りできて、子どもと遊んだり他の親とおしゃべりできるフリースペースとして、子育てサロンは国補助事業「家庭教育ふれあい推進事業」の中の一事業で平成九年度から開始した。

◇子育てサロンの事業内容

子育てサロンは、普通の家庭教育事業のようにプログラムを組んで講師に指導してもらおうといった講座型の事業ではなく、遊びを通じた親子や他の子どもたちとのふれあい、親たちの自



由な情報交換の場とした。主に月に一回程度(平成十一年度からは毎週)月曜日の午前十時から午後二時まで保育室を開放し、親たちに自主運営させていた。従って、特別に指導者も職員も配置しなかったが、だんだん参加者が減って来て、なかなか定着しないようになった。結局、知らない人同士ではコミュニケーション作りに限界があったのである。

◇倶楽部サポーターの配置

そこで、平成十一年九月から一人の指導者に依頼して、月に一回子育てサロンに携ってもらうことにした。そこでの仕事は、子育ての先輩として親たちの気軽な話し相手になってもらうことを第一とし、指導者的な立場を取らないこととした。ただ、親同士がコミュニケーションをとれない時に、両者がうまく話し合えるように話しかけをす



る、といったゆるやかな関係を保つ役割をお願いした。すると、徐々に新しい人がやって来て、満員になる程にぎわったのである。しかし、指導者の来ない日は人が集まらず、親たちだけではコミュニケーションが取れない現実がそこに存在した。これを解消し、少しでも親同士の仲間づくりを進めたいというところで、平成十二年二月に説明会を開いて子育てサロンの主旨を説明し、サポーターする人を利用者・保育者に協力を求めた。賛同した人と「倶楽部サポーター」として登録し、ボランティアで活動日に配置することにした。さらに、絵本の読みきかせの時間を設け、自主グループに

依頼して実施してもらうこととした。

こうして、平成十二年四月からは、ボランティアによる子育てサロン運営が始まったのである。サポーターを配置することにより参加者も増加定着し、親同士の交流も活発化するようになった。特に、受入れ施設の少ない一歳前後の子どもを持つ親の憩いの場になっている。これを機に、管内の大形公民館・木戸公民館でもそれぞれ地域の特色を生かした子育てサロン事業が始まった。保健所や地域の民生委員との連携もこの事業により深まった。

◇最後に

現在倶楽部サポーターの登録数は十六人だが、共通意識と資質の向上、新たな希望者のために毎月研修会を開いて学習している。

子育て中の親の家庭教育事業への期待は高くなる一方である。国も、社会教育法の改正で家庭教育を公民館事業と位置づけている。今後は、地域や関係機関との連携が欠かせないものと思われる。利用者の要求や地域のニーズに対応することが、公民館の今後の重要な課題と

サークル交流

魅惑の陶芸

五泉市 楽陶会

この会は五泉市文化協会に所属し、週に一度活動をしていきます。会員は、全部で10余人です。毎回、それぞれ思い思いの作品を創っています。

以上焼かなければならないので、温度管理をしながら一日かけて焼きます(夏などは暑さも倍増/やめますよ)。最後は、待ちに待った窯出しです。ドキドキしながら窯から出した土と炎の芸術は、思いもよらない姿を見せてくれます。作品の出来はいい時も悪いときもありますが、満足しています。

土の塊をこね、形を作っているのですが、なかなか思い通りの形にはなりません。素焼き後色を付けますが、焼く前と後とは色が変わるので、焼きあがりの色を考えながら色付けをします。その後いよいよ本焼きとなりますが、千二百度で十時間

先日は研修旅行に行き、焼き物の歴史に触れたり、現在活躍されている先生の窯見学に行き大変勉強になりました。今後も楽しんで作陶していきたいです。(同会 松尾・斉藤・椿 記)



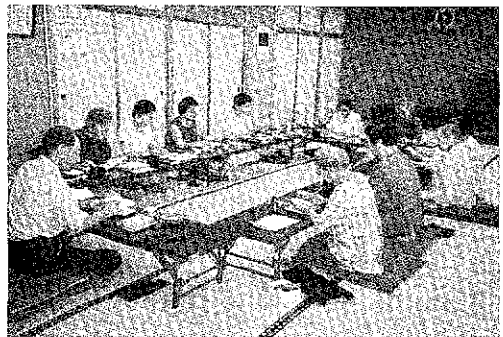
腹筋運動 心を合せれば声も合います。

小須戸町 龍吟会

私共が公民館の指導で詩吟を始めて、早くも20年余りになります。

その間、時の移ろいと共に、当時の顔ぶれに多少の変動はありますが、仲良しグループとしては、ピカ一と自負しています。

それは、お互いにお腹の底から吟じ、忌憚のない吟評を交しあっているからだと思えます。それと詩の内容の深さ、広さ



にも心打たれるからではないでしょうか。

私共の所属する神風流は、総本部は東京ですが地域では新潟市の龍吟会に属します。

年二回の昇段試験と地区大会があります。県、国と大きな会へのつながりもあります。全国大会ともなれば、それは素晴らしい私たちの遠く及ばないものではないですが、それでも合吟では幾度か出場したこともあります。

指導して下さる先生は、声の良否等問題外で詩の意味をよく理解して自分なりの吟をすれば十分と言われます。

これからも、腹式呼吸による健康法で、楽しい会を続けたいと思っています。(龍吟会 安達キヨノ記)

新津市生涯学習課社会教育指導員

風岡 ユノ さん

「新津市の家庭教育学級といえは、風岡さん」というくらいすっかり定着している家庭教育学級のベテランリーダーです。多くのお母さんを暖かく指導し新津市のお母さん達の厚い信頼を受けております。



仕事への情熱をもち、事業の計画や運営に日々頭を悩ませ、すこしでも内容の濃い良い講座にしたいと上司や同僚と

相談を重ねながら最高の講座内容に仕上げている姿勢は、とても素晴らしいことと、尊敬しております。

もちろん職場でも、周囲に暖かい心配りを欠かさないため、皆んなの人気の的であり、いつも頼りにされています。

持ち前のパワーと明るい笑顔で大活躍の毎日です。

これからは健康に留意されて職場のお母さん役としても、頑張ってほしいと思っております。

(新津市生涯学習課 大野 博美 記)

大潟町公民館

主事 内山 篤 さん

ナイスボーイの「ワッチャー」こと内山篤さんは、平成十一年に採用されて以来、町の社会体育事業を一手に引き受けている社会体育のエキスパートです。物腰が柔らかく、大学時代は体育会系で小・中・高校の教員資格の持ち主、とあって、誰からも頼りにされる公民館になくてはならない存在です。

特にパソコンの知識は、町職員の中でも一、二位を争うほど。おかげで、公民館の機器管理もパッチリです。

素顔 拝見



いつも前向きで、昼夜を問わず頑張っている姿は頼もしく、分館長や体育指導委員に慕われています。天性の才能で何でもこなしてしまうワッチャーです。が、「彼女」の話が出てこないことが少し心配です。

残り少ない花の独身生活を、公私ともに充実してほしいと職員一同願っています。

(大潟町公民館 主事 山本 栄美 記)

恵贈資料紹介

朝日村生涯学習推進プラン

「あかるくさわやかなひとづくり」

表紙は、朝日村の鳥瞰図で、そこにサブタイトルル〇がるく、〇わやか、〇とづくりの文字を載せている。

内容は、第1部序論、第2部基本構想、第3部基本計画、第4部実施計画、そして資料編から構成され、一般的なパターンの編集となっている。

特徴としては、第4部実施計画の中で、第1章生涯学習推進体制の整備、第2章生涯学習の機会の整備・拡充、第3章学習環境の整備として項目立てし、それぞれ〇新規事業 〇既存事業 ★検討事業、継続毎に平成14年度から平成18年度までの実施、達成年度を示していることである。



しかし、急速に市町村合併問題が具体化している中で、この生涯学習推進のプランの行方はどうなるのか、注目を要するところである。

朝日村生涯学習推進本部



恵贈資料紹介

地域の子どもが健やかに育つ

公民館子育て支援活動

内容は、第1部新たな公民館活動を求めて、第2部青少年育成をめざす公民館活動 第3部

この冊子は、平成12年度(任)全公連が、文科省の委嘱を受けて行った「公民館を『家庭教育の拠点』として機能強化を図るための方策に関する実証的調査研究」の一環として作成された、公民館の手引書たる「新しい公民館活動―地域の子どもが健やかに育つ―」をもとに、新たに調査報告の概要も加えて、再集されたものです。



編著者 今野 雅裕

日常出版 (本体一、五〇〇円十税)

新しい活動を創る実践事例から構成されており、とくに第2部の青少年育成部門で、本県からは〇テーマごとの優れた実践例として、〇受講者による家庭教育学級の企画運営として新潟市坂井輪地区公民館「企画委員会」が、〇父親の会支援として新潟市中央公民館・父親学級「すてきなお父さん頑張れ」が、紙上紹介されております。

〔第25回 全国公民館研究集会〕

1. 大会テーマ「公民館新世紀」
～ひと ところを むすぶ ふるさとづくり～
2. 期日 平成14年10月3日(木)、4日(金)
3. 会場 第1日 松山市総合コミセン等
第2日 愛媛県県民文化会館
4. 主催・後援 (省略)
5. 日程

第1日 10月3日(木)、分科会(各分科会場) 10:20~16:10

第9分科会「ふるさと・地域づくり」
②心通うまちづくり・人づくりの推進

十日町市公民館中条地区館が事例発表(概要4、5面に掲載)

第2日 10月4日(金) 全体会 9:00~12:10

アトラクション、記念講演

当県公連今井昭友会長が、全公連理事として、第9分科会運営を担当。

あとがき

◇第43回関プロ大会も、県内各市町村公民館のご支援・ご協力により何とか無事終えることができました。とくに主管公連の二市北蒲公連・新潟市公連の皆様

さん方には、全面的なご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。9月2日から、早速大会の事後対応に入りました。(鈴木)

表紙解説

しらすぎ森林公園
花菖蒲まつり

6月16日から7月7日までの間、しらすぎ森林公園で花菖蒲まつりが開催され、期間中約2万人が公園を訪れました。各種イベントやテナントで盛り上がり、夜間のライトアップが米場者を魅了しました。(栄町公民館)

発行所 新潟県公民館連合会 〒951-8053

新潟市川端町2-9・県林業会館内 TEL・FAX (025)224-6073

発行人 会長 今井 昭友 夫 編集人 事務局長 鈴木 友

印刷 第一印刷所 〒950-8724

新潟市和合町2-4-18

TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】